

川崎市東扇島の埋立地におけるヒガシキリギリスの生息

Occurrence of *Gampsocleis mikado* Burr in the Reclaimed Land, Higashi Ohgishima, Kawasaki

雛倉正人

Masato Hinakura

筆者は、今回の第7次川崎市自然環境調査において市内の直翅類の記録をまとめたが、脱稿後、東扇島の埋立地にて海浜性ハチ類を探索中、ヒガシキリギリス *Gampsocleis mikado* Burr の鳴き声を多数確認し、撮影することができたので、記録しておきたい。あまり人が踏みこまない広場の草地の一角や、建物やフェンスのそばにある丈の高い雑草の茂みで、鳴き声を確認した。

1♂撮影 川崎区東扇島東扇島東公園 2010年7月24日(図1)

キリギリス(最近の分類では日本の東西で2種に分けられている)は誰でも知っている昆虫であるが、川崎における正確な記録が乏しく、また、神奈川県では都市近郊における衰退が顕著で、レッドデータ要注意種とされている。筆者は川崎市内において、本種を町田市との境界付近で確認しており(雛倉、*)、また、多摩川では東京都府中市域に多数生息を確認している。本種は成虫の出現時季が初夏から秋の高温期で、しかも茂みに隠れていることが多いため、発見は必ずしも容易ではない。当地は埋立地であるので、土砂と共に卵が外部から持ち込まれ、バッタ類幼虫などの餌が豊富にあること(本種は成長の過程で中齢以降に動物質を要求する)・生息に適した草地環境の創出という条件が揃い、多数発生した可能性が高い。また、場合によっては、一部の人間により放されても、条件が合っしまえば存続することが考えられる。

移入起源が疑われる場所であるので、ヒガシキリギリスであることの確認を、埼玉県飯能市在住の和田一郎氏(日本直翅類学会)にお願いし、同定および有益なご助言をいただいた。ここに感謝したい。

参考文献

* 雛倉正人, 2011. 川崎の直翅類. 川崎市自然環境調査報告書VII : 189-203.



図1 ヒガシキリギリス

著者紹介

雛倉正人 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 昆虫班・水田ビオトープ班